

# 積善

題字 第241世天台座主 玄深師(惠亮院藏)

## 餘慶寺だより

編集・発行 上寺山餘慶寺

〒701-4232 岡山県瀬戸内市邑久町北島 1187

納経所 TEL 086-942-0186 FAX 086-942-0187

惠亮院 TEL/FAX 086-942-3788

本乗院 TEL 086-942-2791 FAX 086-239-5823

吉祥院 TEL/FAX 086-942-3789

定光院 TEL 086-942-2356 FAX 086-944-1490

明王院 TEL 086-943-1030 FAX 086-943-1069

圓乘院 TEL 086-942-2356

ホームページアドレス <http://www.yokeiji.com/>

今年も福鈴まつりを開催します。詳しくは「福鈴まつりのご案内」をご覧ください。



### おせがきと万灯会 餘慶寺水祭り

ご存じ、美空ひばりの「川の流れるように」の二番の歌い出しに

月生きることは 旅すること

終わりのない この道

とあります。仏教の輪廻転生とは、まさしくこの道理ではないでしょうか。

いのちはずっと生き続けています。この世で一緒に暮らしたお父様やお母様、兄弟や、愛するわが子、…

実は今も生き続けています。それらの命が、ほとけの御許で幸せに暮らしていればいけれど、知らぬうちに

に苦しんでいれば大変です。何とか救って差し上げた

いものです。

その救いの手立てが「おせがき」です。餘慶寺では水祭りとして、水塔婆や多くの灯ろうによって、三界

万霊、すべての命を供養します。

功徳を積み、先祖供養、家内安全へとつながります。

餘慶寺水祭りへ、どうぞお参り下さい。

## 餘慶寺 夏の行事

山家会 (本堂)

六月三日(火) 十六時

四日(水) 八時

日本天台宗の開祖伝教大師最澄さまの命日法要です。前夜の法要を併せ「伝教大師和讃」をお唱えします。

写経会 (本堂)

七月一日(火) 三日(木) 五時

早朝のさわやかな空気の中、心を落ち着けて写経をしましょう。毎日、法話があります。また期間中の日中も写経がしていただけるようご用意をしております。六月二十五日(水)までに各院または納経所へ志納金三千円を添えてお申し込みください。

愛宕会 (愛宕社)

七月二十三日(水)

愛宕社に火難を防ぐ神様として祀られる將軍地藏のお祭りです。当日は年一回のご開扉があります。

初盆供養会 (本堂)

八月十五日(金)

亡くなられてから最初に迎えるお盆を初盆といひ、ねんごろに供養するものです。餘慶寺では本堂にて初盆供養会をおこなっています。今年初盆を迎えられる方へご案内をお送りします。

水祭り・施餓鬼会 (本堂)

八月三十日(土) 十七時

万灯会(境内) 十九時

夏を締めくくる、ご先祖様を供養する法要です。お接待も用意しております。

各院からのお知らせ

惠亮院より

毘沙門天王縁日護摩祈禱 (於 惠亮院毘沙門堂) 毎月三日 午前十時

本乗院より

写経会 (於 本乗院客殿) 毎月第三日曜日 四月〜十月 午前六時

定光院より

大聖歡喜天縁日(於 定光院) 毎月十五日 早朝より

※病氣平癒等のご祈禱は随時 受付しています。

餘慶寺からのお知らせ

薬師縁日(於 薬師堂)

毎月八日 午前十時 (八月はありません。)

護摩供養をしています。ご祈禱のお申し込みは納経所へお願いします。

観音縁日(於 本堂)

毎月十八日 午前八時

みんなで観音経をあげます。お経本は本堂にありますので、お気軽におまいりください。

古いお塔婆をお焚き上げします。八月になりましたら本堂へお持ち下さい。

## 芳名軸の完成

平成のご開帳と大修理に際し、ご寄進たまわりました皆様からの善行と浄財を、末永く顕彰させていただくため、色々な方法を検討しました。その結果、軸表装いいわゆる「芳名軸」に仕立てて、後世に残し伝えることが最良と思に至り、作成に取りかかりました。

千人を超える善男子善女人の御芳名は、菩提寺の各院住職が丹念に確認し、墨書を当代餘慶寺住職が担当しました。皆様の尊いお志に、一文字一文字、感謝を込めて、仏の御名を念じながら筆書をし、大きめの御軸を三幅に仕上げました。新たな歴史を刻む「芳名軸」。これをもって、この度の慶事のおしめくくりとさせていただきます。

六月下旬あたりより、餘慶寺会館講堂にてお披露目をいたしますので、是非ご来山下さい。



## 中期計画の経過報告

はす池の完成 〓 遊慶の庭〓

餘慶寺境内の敷力所に、石組みを配した蓮池が誕生いたしました。平成二十六年三月に工事は完成し、工事を請け負った俊軒園さんと、山内僧侶が総出で水張りし蓮の植え替えを行いました。執筆中の現在、蓮の芽がちらほらと水面から出はじめ、夏に向けて成長、開花、結実するのが想像でき、慶びも増すばかりです。

これから先、餘慶寺を訪れる方々が増え、「遊慶の庭」の本来の目的であります、神仏と先祖と、今に生きる人々との、遊びふれ合う浄土空間の場に、一刻でも身を置いていただければ幸いです。

よろこびは 〓ここにまませ  
みほとけと

てんと にとの ゆうけいのにわ  
どうぞごゆるりとお参り下さい。



## ひとくち法話

因なくして果を得る、この処ことわりあることなし

これは伝教大師最澄さまのお言葉です。原因がなければ結果は生まれません、分かりきったことですね。しかし、これまでの人生を振り返ってみると必ずしもそう言えるでしょうか。

人生とは、日々の努力と反省で積み重ねていかなければなりません。しかし、そういった地味ではありますが、確かな積み重ねを怠り、何か妙なものに頼って「まぐれ当たり」を期待したり、他人の力を利用して世渡りをしたりしてはいないでしょうか。

私自身振り返ってみますと、例えば学生時代、テスト前日に必死に一夜漬けで勉強していたことを思い出します。困った私は、自分の都合の良いように解釈して、「まぐれ当たり」を期待するわけです。お恥ずかしい限りですが、その程度の付け焼刃の努力やおかしな期待で結果が出るはずがありません。

自分で播まいた種を、自分自身で処理しようとせず、何かに頼りさえすれば万事が救われるという考え方、これこそが現代の私達の問題ではないでしょうか。

「因なくして果はない」という教えをしつかりと肝に銘じ、日々の努力と反省を怠らずに励んでいきたいものです。



## 岡山教区法要

## 比叡山団参の報告

去る五月十五日、比叡山延暦寺東塔の根本中堂におきまして岡山教区法要が厳修されました。本法要は、「祖師先徳鑽仰大法会」の一環として各教区毎に行われているものです。それに伴い、餘慶寺から三十四名の檀信徒の皆様のご参加をいただきバス一台で上寺を出発しました。

当日は、雨が降り、まだ肌寒さの残る比叡山でしたが、横川では横川中堂、東塔では大講堂へ参拝の後、教区法要が行われる根本中堂へ参拝・参列いたしました。法要では、教区内から三百名を超える檀信徒の皆様が集まり、厳かな中にも盛大なものでした。餘慶寺檀信徒の皆様と一緒に参拝ができたありがたさを感じました。

また、法要におきまして、餘慶寺僧侶から中尾叡海住職(明王院)、西野祐誠住職(定光院・圓乘院)、小林周伸住職(本乘院)が出仕させていただきました。

日帰りということで、慌ただしい参拝となりましたが、多くの檀信徒の皆様のご参加をいただきまして、本当にありがとうございます。



毎月十八日は観音縁日。午前八時より観音経を誦読します。

毎月第二日曜日午後二時より阿弥陀堂にて納骨堂説明会を行っています。

# 十三仏について〜弥勒菩薩〜

弥勒菩薩（六七日）

六七日の仏さまは弥勒菩薩さまです。

お釈迦さまが亡くなられてから、五十六億七千万年後の遠い未来にお釈迦さまのかわりとしてこの世に現れる菩薩さまです。

お釈迦さまの説かれた教えが長い時を経て正しく伝わらない「末法」という時代に弥勒菩薩さまは現れて教えを説かれるのです。

現在は、兜率天というところで菩薩行にご精進なされているとされています。

また、七福神として有名な布袋さまは、弥勒菩薩の化身と言われていることもあります。

弥勒菩薩さまの仏像は、瞑想にふける\*半跏思惟の美しいお姿で表されるのが代表的で、優しく微笑まれているのが印象的です。

どのようにして迷い苦しむ衆生たちを教え諭し、涅槃へと導いていくべきかを慈悲の心にて思惟されているのでしょうか。

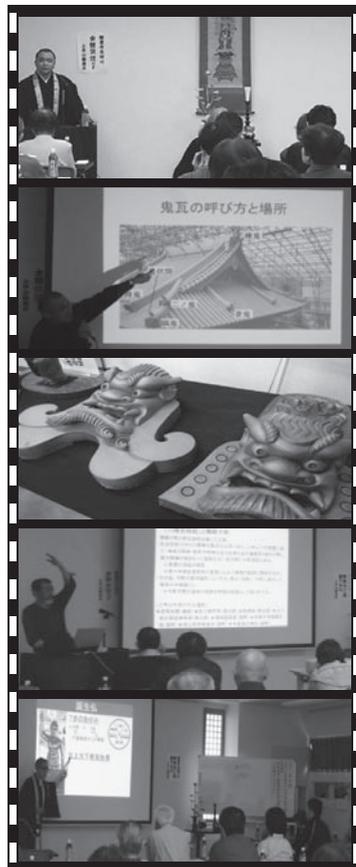
\*半跏 片足を他の片足のものの上に組んで座ること



## よけいじ寺子屋だより

会場 餘慶寺会館（十四時〜）

### 寺子屋写真館



### 今後の予定

☆『仏画の画材と手法について』 六月二十日（土）

講師 日本画家・岡山日展会会員

神戸淑子先生

☆『平成の大改修からわかったこと』 その1

七月十二日（土）

講師 上寺山を良くする会会長

有森 剛先生

☆『時代の声を受け止めて』

『現代の納骨堂事情』 七月二十七日（日）

講師 餘慶寺・恵亮院住職 土井内祐真師

☆『平成の大改修からわかったこと』 その2

九月十五日（月祝）

講師 上寺山を良くする会会長

有森 剛先生

※聴講無料です。お誘い合わせつえ、ご参加下さい。八月はお盆期間中のため、寺子屋はお休みします。

### 編集後記

あつという間に夏が近付いてまいりましたが、春のお彼岸では、中国観音霊場三十三周年記念県内法要への団参お疲れ様でございました。

餘慶寺では、完成した蓮池から芽が伸び始めてきました。これから、蓮や睡蓮の花が境内を賑わせてくれることでしょう。是非、お参り下さい。